

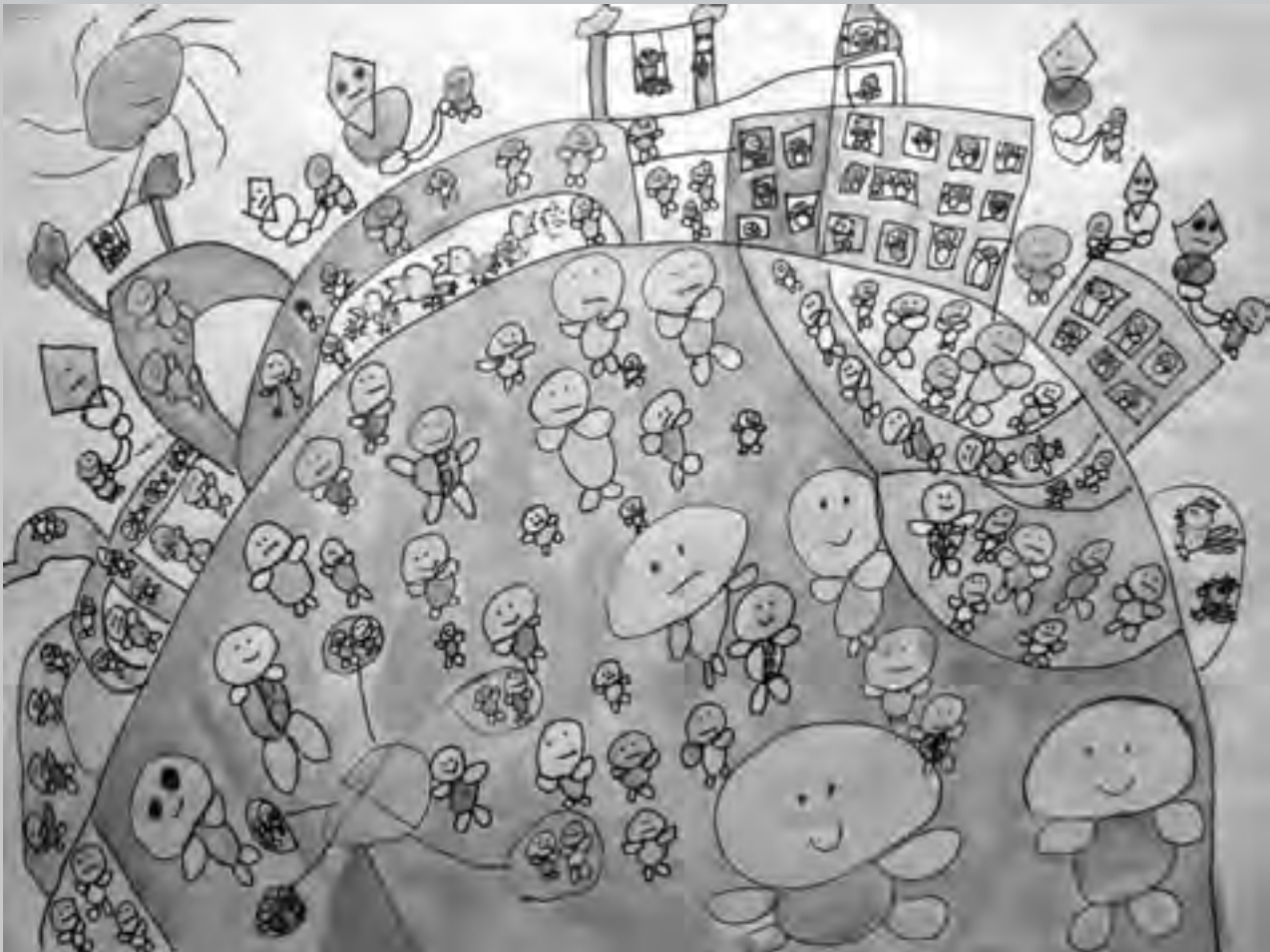
保育北九州

平成28年7月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話(093)661-2153番

発行人 酒井光義
編集人 日野真人

2016 184



友だちだいすき

〈提供 門司支部〉

ほいくえんで、友だちといっばいあそびた。まどから見ている友だちも、楽しいゆって言った。みんなで種をまいて大きい木ができたなら、ブランコ作ってあそびたいなあ。

(5歳児の作品)

表紙	1
インタビュー	2～3
仲間たち	4～5
研修報告	6
支部近況	7
雑感・編集後記	8

第3回九州保育三団体 研究大会に向けて

—— 実行委員長 橘原淳信先生インタビュー ——

平成28年5月25日
於…光法寺会議室

平成28年7月20日～22日に北九州市で行われる第3回九州保育三団体研究大会に向けて、大会の目指す方向性や意義などを実行委員長の橘原淳信先生にお聞きしました。

文中（橘原）…実行委員長 橘原淳信先生
文中（編集A～G）…保育北九州編集部

（編集A） いよいよ大会が近づいて来ま

した。今日は、わたしたち北九州の保育の仲間たちがこの大会に、いかに関わっていくべきなのを中心にお話しを聞かせてください。

（橘原）

平成23年11月14日に東京日比谷公会堂にて行われた「子どもの育ちと保育制度を守る全国研修会」に九州から1400名もの参加者がありました。この研修会における、子どもの育ちを守るためには大同団結して声をあげていかねばならない、との願いが九州の仲間が結集したきっかけになったと思っています。このことによつて九州保育三団体が一つになっ

て研究大会をしていこうとの思いへ続いたのだと考えています。

（編集B）

3回目の大会で、規模もスケールアップしてきているように感じます。

（橘原）

参加申込数も順調に推移しているようです。参加者が多ければよいというものではありませんが、やはりこの研究大会にかけの思いが数にでるといふこともあるかと思えます。北九州で行われる大会への、期待の大きさの表れではないかと感じます。

（編集C）

今大会の母体となったのは、九州私立保育園連盟・日本保育協会九州地区連合会・

九社連保育協議会だったと聞いていますが、いろいろな背景を持つ団体が一つの研修会を合同で行うのは希有のことだと思えます。それらの団体が今では「九州保育三団体協議会」としてついに集まっているのもすごいことだと思います。なぜこのような難事がかなったのでしょうか？

（橘原）

筋を通すためには「小異を捨て大同につく」という九州人気質がその礎であろうかとも思います。それだけに北九州に集まる保育関係者を、おもてなしの心を持って迎えたいと役員一同で話し合っているところです。

（編集D）

おもてなしの心とは、どのように考えればいいのでしょうか？

（橘原）

ひとことで言い表しますと、人を大事にしていくこと、と言いつては甘いでしょうか。

具体的には、語り合い学び合いしていく中で、たとえば意見の相違があるうとも否定せず、相手の考えるところに思いを馳せる必要があると思います。そうしていく中で気持ちを通じ合っていくのではないのでしょうか。

（編集E）

それは分科会のみならず交流会でも同じことなのですね？

（橘原）

交流会は互いに胸襟を開いて語り合える貴重な場だと考えています。われわれは歓迎する者として、ゲストのみなさんをもてなしていきたいものです。

（編集F）

大会主題は「～すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして～」です。この意味するところも教えてください。

（橘原）

わたしたち保育者は、子どもの最善の利益を守ること

を使命として保育に携わってきたと思っています。「子ども・子育て支援新制度」が施行されて一年が経過しましたが、この制度で国は大筋を示しているものの、保育の基準が市町村にゆだねられ、さまざまな運用がなされることで保育環境や保育条件に地域格差が生まれました。ここを考えていかねばならないのではないのでしょうか。

(編集D) 新しい制度が内包する問題点は、官民あげて改善していかねばならないように思います。

(橘原) 改善するにあたって立脚せねばならないのは、まず子どもたちの立場です。ですから今大会においても、カテゴリーやテーマを考えるにあたって「子育て・親育ち」を中心に据えています。それは特別分科会にも強く反映されていますので、期待して頂きたいと思います。

(編集G) 今回は会場が数カ所に分散されますが、それも北九州を知ってもらうのによいのではと感じています。

(橘原) 移動がありますが、そのこととてかえって北九州のよさを知っていただけるよい機会だと思っています。

(編集A) 大会参加費をできるだけ低く抑えての募集になったのは、多くの方に参加してもらいたいゆえのこととも聞きました。

(橘原) われわれは手弁当でも、多くのおみなさんをお迎えし、おもてなししたいと考えています。参加費で動く方はおられないと思いますが、「気は心」という言葉もございませぬ。少しでもわれわれの思いが通じればと考えてのことです。

(編集B) 実行委員長を始めとする北九州の保育者の思いが通じて、大いに議論が盛り上がりやすいですね。

(橘原) 始めから結論ありきの大会ではありません。参加者のみなさんが大会を通じて一つでも感じるものを持ち帰っていただければと考えています。

(編集C) 熊本や大分の地震で多くの

仲間や関係者が被災しています。心が痛むことです。

(橘原) 九州の保育三団体や保育士会では、地震直後から何か協力できることはないか、と動き出しました。それは今も続いていますし、全国の保育三団体や保育士会でもそれは同じです。困難に際して、組織はその本質を問われます。われわれはこれからも被災者と共にありたいと考えています。

(編集C) 今大会は行政も共催してくださっています。

(橘原) 北九州は行政と保育関係者が手を携えて、北九州保育



とも言うべきものを作り上げてきました。ここでもう一つ強調しておきたいのが、北九州の保育関係者は、経営者と実務者というふうに分離せず、協働する仲間としてやってきたということです。

(編集D) 北九州の温かい保育関係者の繋がりを参加者にも感じていただきたいですね。

(編集E) スタッフ一人一人が、北九州を代表しておもてなしするのだという自覚が必要だと思えます。

(橘原) 一人一人の気持ちを集めて、大会を盛り上げていきましょう。

(編集同) 本日はお忙しい中、インタビューに協力いただきましてありがとうございます。大会ではスタッフとして頑張ります。

以上文責…保育北九州編集長

日野真人



今回は、へき地保育所「北九州市立藍島保育所」を訪ね、所長の南里先生や保育士の徳丸先生にお話を伺ってきました。小倉渡し場（小倉北区浅野）から船で約35分かけて、南里先生と一緒に現地入りしました。藍島保育所は藍島渡し場から徒歩で約10分、藍島小学校に隣接していました。保育所に入ると子ども達の笑顔と「ようこそ あいしまへ」の手作り看板に迎えられ、心がほっこりと温かい気持ちになりました。保育室内では、保育士と子ども達がまるで家族のように過ごし、穏やかな時が流れていました。



- Q.** 「へき地保育所」は、何か規定があるのですか？
- A.** 設置目的は、国の「へき地保育所設置要綱」に規定される、へき地保育所として交通条件及び経済的、文化的諸条件に恵まれていない離島等において、保育を要する児童に対し適切な保護を行い、よって児童の福祉の増進を図ること。設置団体は、一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会です。
- Q.** 保育目標や保育の内容をお聞かせください。
- A.** 保育目標は、豊かな自然環境の中で「おもいやる心」「素直な心」

- を主目標として、日常の基本的習慣をしっかりと身につけるとともに、「よく遊べる子」に育ってもらうことです。藍島保育所では3歳の保育室で一日を過ごすため、異年齢児保育を取り入れています。年上の子は、思いやりや優しさを自覚し、年下の子は、年上の子への憧れや目標を持てるような保育を行っています。また、藍島小学校と協同して運動会、学芸会、マラソン大会等を行ったりサブセンター行事に積極的に参加したりしながら、小学校や島の方々の地域交流の拡充も図っています。
- Q.** 保育士の勤務体制や通勤方法はどうなっていますか？
- A.** 主保育士1人と補助員1人、計2人体制で保育をしています。補助員は交代制で総勢5名います。保育士（常勤職員）も補助員も藍島で生活しています。
- Q.** 保育時間や園児数についてお聞かせください。
- A.** 保育時間は、午前8時から午後5時までです。園児数は、現時点では4人ですが、秋に1人、入所予



- 定です。3歳になった翌月から入所できます。
- Q.** 子ども達の家庭環境や島の人々の生活スタイルを教えてください。
- A.** 保護者のほとんどが漁師です。父親が沖に出て漁獲した魚介類を母親が洗ったり加工したりして市場に出します。その作業をしている時は、子ども達は保育所で生活しています。でも2歳までは親元で過ごすので、ひと昔前はおんぶひもで子どもをおぶって作業していたようです。また、島の人々は互いに助け合って生活しているので結束力が強く、全島民が子ども達の名前を呼び合い見守ってくれて



います。実際に運動会は、小学校、漁業組合や町内などが協力して行う島全体の運動会です。この一大イベントの運動会では、いくつもの大漁旗があがり、保護者が子ども達全員に大きなかけ声をかけて応援し盛り上がります。島民との交流の場にもなりとても楽しいですよ。

Q. 他の行事も教えてください。

A. 生活発表会は、小学生と一緒に小学校の体育館で行い、遊戯や劇、合唱などを島の方々や家族に披露します。他には、他園と同じように七夕や敬老会、ソーメン流し、

遠足や人形劇鑑賞などがあります。親子遠足では、船に乗り島を出て色々な所に行きます。人形劇の鑑賞は、北九州ソレイユホールで行われる劇団「飛行船」による人形劇を観るなど、情操教育にも力を注いでいます。私たちは、町（小倉周辺）との差をなくす為に、子ども達が色々な事を経験できるように心がけています。

Q. 保育で特に気をつけていることはありますか？

A. 子どもの発達に沿った保育に視点を置き、保護者や職員と共に健やかな成長を培っています。例えば、花火大会に参加したり北九州市立児童文化科学館に行きプラネタリウムを見たりする事もあります。また、子どもの栄養にも気をつけています。

Q. 給食献立はどのようにしているのでしょうか？

A. やはり食へ物に限りがありますが、船で物資を調達していますが、十分ではありません。園独自のメニューで栄養バランスを考え調理しています。給食の食材不足を考慮して、園庭の空地を利用し野菜



栽培を行い食育への関心を高めています。子ども達は食はず嫌いがあっても、自分で育てた野菜は食べるので、嫌いな食へ物が徐々に減りつつあります。

Q. 地震・津波などの避難訓練はどのようにされていますか？

A. 藍島は海に囲まれています。避難訓練では、小学生と一緒に山に避難するようにしています。子ども達にとってかなりきつい訓練ですが、身を守る術は日頃から身につけておかなければいけないので頑張って参加しています。

Q. 藍島のおすすめスポットを教えてください。

A. 藍島は、周りをきれいな海で囲まれているので、夏には海水浴客で賑わいます。また、釣り客にも人気のスポットです。近年は、島中に猫がいる猫島としても有名になり、福岡県でも有数の離島観光地となっています。また魚料理がおいしい民宿もあります。しかし何ととっても、美しい自然と全島民の温かい優しさに触れることが出来ますので、ぜひ一度遊びに来てください。



研修報告

「社会福祉法改正と新制度を めぐる状況と課題」について

平成28年5月19日小倉北区ホテル

ニユータガワに（公社）全国私立保育園連盟、塚本秀一常務理事をお招きして「社会福祉法人改革」をテーマに研修会が開催されました。塚本常務理事はご自身で作られた『社会福祉法改正と新制度をめぐる状況と課題』について『という資料を元に、前半は平成27年4月から始まった「子ども・子育て支援新制度」について制度創設の背景や趣旨と、又これは大都市の保育園に入れない待機児童対策が目的であるが地域の実情に応じた子育て支援の展開が必要である事、そのためには市町村は地域住民の多様なニーズを把握した上で、計画的に、その地域に最もふさわしい子育て支援を実施する必要がある」と話されました。

後半は平成28年3月31日に可決成立したばかりの「社会福祉法人制度改革」についてのお話がありま



した。保育園は、国会等で議論されている「待機児童の問題・虐待の問題・子どもの貧困の問題」などに「生懸命取り組んでいます。なぜ今、この法人改革が必要なのかを多様な視点で教えて下さいました。塚本常務理事は教師と生徒という目線ではなく私と皆さんは同じ仲間だという感じで懇切丁寧に説明していただき、大変有意義な研修会だったと思います。

杉の実乳児保育園 杉 園 恵 子

スーパーバイザー研修会 研修報告

平成28年5月25日に開かれた「スー



パーバイザー研修会に参加させて頂きました。

まず始めにスーパーバイジョンとは「人材の育成や人材の活用をしていくことで、保育の質が向上し、より良い保護者支援が出来る。その為に具体的目標を一つずつ達成させるプロセスのことをスーパーバイジョン」と聞かせていただきました。また、スーパーバイザー（支援する保育士）がスーパーバイザー（支援される保育士）の成長を支援していくには、話を聴く技術やカウンセリング、コーチング等様々な技法を用い、スーパーバイザーが課題に気づき、

自発的に目標達成に向けて行動出来るように支援していくことが大切であると学びました。スーパーバイザーという立場が私には難しく、上手く活用出来るか不安でしたが、植田寿之先生の講義を受け、保育を行う上でとても大切なことであり、お互いに支えあっていくことでより良い保育につながると学びました。

うさぎ保育所 中 村 律 子

平成28年度 3歳未満児発達研修に参加して

平成28年6月21日アシスト21の講堂

にて、作陽音楽短期大学教授の八木義雄先生より3歳未満児発達研修のご講義を頂きました。北九州の保育の熱心さはすごく、今までの研修成果に繋がっているとお聞きし、その環境の中、保育が出来ている私達は本当に恵まれていると感じました。今回は『乳児の生命・発達と保育』をテーマにお話して頂きました。少子化が進んでいる中、保育所に入る子は増えており、毎日長い時間子ども達を預かっている未満児保育への期待は膨らんでいるそうです。その中で子ども達の命を預かる保育士は、重要な位置を占めていると思われました。午後は『乳児の健康な生活と保育』についてお話頂きました。最近はずっと子どもの成長に必要な食事や睡眠が家庭でうまく取れない分、保育所の



役割は大きく、安定して過ごす事が出来る為には、十分な睡眠がとれる事と、安心できる人により良い食事が出来る時間・

場所を確保する事が必要との事でした。その中で、子ども達の生活習慣についてもお話を頂きました。乳幼児期の睡眠は早寝早起きを基本に、午睡を含め1日11〜12時間取れるようにする事で覚醒水準を高める質の良い睡眠になり、日々を落ち着いて過ごす事が出来るようになるそうです。また、給食が子ども達にとって一番の栄養源になっている事について、細かい摂食機能の段階に合わせて関わる事により良い食事の時間になるそうです。排泄では排尿三感覚を使い、焦らず様子を見ながら進めていく事でトイレトレーニングが進むなど、子ども達にとって大事な生活の基盤について丁寧に教えて頂きました。子ども達が安心して過ごせる為には、保育士が一人ひとりに合わせた関わり・援助をする事がどれだけ大事かと改めて感じる事が出来たと同時に、子ども達の大事な命を預かっている保育士の仕事は責任が重い分やりがいも充実感も大きいので、これからも子ども達に寄り添う保育を心掛け、一瞬一瞬を大切にしていきたいと思いました。

ひびきの保育園 田 中 美 香

支部 近況 第10回 戸畑区篇

毎年6月の第1土曜日・日曜日に夜宮公園で行われる菖蒲まつりに合わせての保育まつり。地域の方々とのつながりも大切にしながら、平成28年度で18回目となります。

保育まつりは、子どもたちやご家族の方々との交流の場であります。毎回おみやげに準備する手作りおもちゃは、身近にある廃材などを利用しながら作っています。「保育園にはこんな素敵な笑顔いっぱい保育士さんがいるよ」「こんなアイデアいっぱい遊びがあるよ」と猛アピールしつつ、その場で子どもたち自身が一時間加えられるように工夫し、満足感とたくさん笑顔と一緒に持ち帰っていただいています。今年は牛乳パックを使っておもちゃ（パクパク人形とコマ）を作成しており、当日の子どもたちの笑顔を思いつつ、各園での下準備にも余念がありませんでした。

当日ステージには、毎回順番で3園



の子どもたちが出演します。演目は、踊りや和太鼓など様々ですが、「楽しみにしていますよ」と地域の方々に声をかけていただいています。子どもたちは大舞台に「どきどきするね」と言いながら練習をしています。出演した際に、たくさんの拍手をしていただくことで、達成感と自信がもてるようです。また、年2回の職員研修会も行っています。内容は、毎年様々ですが、近年は「疲れを覚える日常に癒しを与

えられるもの」へスキルアップにつながるもの」を取り入れています。

昨年の第1回研修会「ストレスケアのアロマセラピー」では、講師にハーブとアロマの学校 Dear Natural の杉原美保先生をお招きし、ハーブやエッセンシャルオイルの使い方をご教授いただきました。呼吸器にはタイムが良いこと。ティーツリーは抗菌作用が強いこと。レモングラスは虫よけに、またラベンダーには打ち身や日焼け・火傷に効果ありとのこと。実際にアロマの香りも楽しみながら心身ともにリラクセスできる時間をみんなで共有できました。

2回目の研修会では障がいを持つ子どもの保護者としての立場で講師河野利恵香先生より、お話をいただきました。先生の実体験に基づいて、孤独な保護者の思いや不安、これまでの取り組み、今もなお繋がりのある関係施設、様々な背景や環境について貴重な体験談をお聞きすることができました。子どもたちの今後の成長を見据えたうえで、今私たちにできること、また、子どもたちにとっての最良の選択を保護者とともに考えることなどを通して、日々の保育を見つめなおす良い



機会となりました。ひとつひとつ、保育士みんなで学びを深めていく研修会を今後も進めていきます。今年は、全体の先生をお招きして体のリラクゼーションと、「絵本・おもちゃ」についての研修会を予定しています。戸畑支部は、園数11か所の小さな支部ですが、和気あいあいと、公私一体で支部の活動に取り組みながら、これからも子どもたちの笑顔のために日々研鑽していきたいと思えます。



ザリガニつり

ザリガニつりに行ったよ。
すみっことつりざおを投げたら、
『ザリガニの王様まっかちん』がつれた。
みんなでびっくりした。

(5歳児の作品)

雑感 「地震を経験して思う事」

去る4月14日、16日と熊本地方で震度7という大地震が発生しました。本震の際には、ここ北九州でも大きな揺れを感じ、寝ぼけ眼で飛び起きたものです。「これは地震だ。絶対に地震だ。さあ、どうする」と考えを巡らせるばかりで、行動を起こせない自分に驚いてしまいました。頭の隅で「たいしたことはないだろう」と高をくくっていたのかもしれない。ただ、翌日は早朝より交通機関がマヒし、なんとか保育園に辿り着いたものの「地震です。避難して下さい。」という警告音に背中を押され、子どもと共に訓練ではない避難を繰り返しました。「子どもの命を守るのは私たち保育士しかない」という責任感と、大きな揺れがきたら？という不安感でいつぱいの時、ふと東日本大震災の津波から子どもを避難誘導した保育士の事を思いました。子どもを背負い、両手に抱え「大丈夫よ。先生と一緒だからね。さあ、行こうね。」と笑顔で励まし続けたに違いないその姿が浮かび、今更ながらに胸がしめつけられました。熊本地震でも自宅が倒壊し、家族と避難所生活を送りながら保育園に通う保育士がいると聞きました。大家族や家を失って喪失感でいつぱいの大人の中で傷ついているだろう子どもに寄り添う姿は、大きな希望です。私

たち保育士は、子どもの傍らで命を守る。ことと同じように、心を育てていく。ことが何より大切なんだと改めて感じています。

また、5年前の東日本大震災以降、自然災害が増えたことと併せて、子どもの命を守るための防災用品が進化し、便利なグッズが増えました。世間では、建物の耐震という言葉に敏感になり、設備が整っているから安心できるといふような風潮も高まっています。その最新の建物で働く保育士は不足しているというのです。世の中の人々が、この保育という仕事を認識し、きちんと評価してくれることを願います。子どもの心を育てるのは大人の心です。

今年度、わが園には、新卒保育士6名を迎えることができました。「奇跡が起きた。」と全職員で大喜びしましたが、喜んでばかりはいられません。志を持つてこのみどり保育園を選んでくれた保育士が、子どもの傍らにあることを喜び、意欲と責任を持つて働き続けることができるよう丁寧な育てていかなければと肝に銘じています。人間の根っこをどう育てるかということ、どんな社会を目指すのかに繋がっていきと信じています。

みのり保育園

村上恵

編集後記 — われは草なり —

「われは草なり / 伸びんとす / 伸びられるとき / 伸びんとす / 伸びられぬ日は / 伸びぬなり / 伸びられる日は / 伸びるなり」これは高見順さんの詩の一節です。教科書に掲載される詩でもありますからご存じの方も多と思います。この詩について讀賣新聞4/1号編集手帳でこのように書かれていました。以下抜粋。

「新国劇の名優とうたわれた島田正吾さんは駆け出しの昔、舞台上『千葉周作』の寺小姓を演じた。たった一行

ながら新聞の劇評欄に初めて名前が載った。<島田正吾見るに堪えず>◆山中伸弥さんが執刀すると、20分の手術が2時間かかった。足手まといの“ジャマナカ”という異名を先輩医師からもらい、臨床医になる夢をあきらめた。その人がノーベル賞で研究医の頂点を極める」他人の評価をものともせず伸びていく力。その裏には伸びられぬ苦悩の日々があつたと気づかされました。伸びられる日、伸びられぬ日。どちらもかけがえのない日々。

「保育北九州」編集長 日野真人